

# Drafted pattern と Commercial pattern の 比較研究 (第3報)

下半身の体型分類

加藤恵子・後藤喜恵・古川智恵子  
松井章子・久田はるみ

## Comparative Study of Drafted Pattern and Commercial Pattern (Part 3)

Somatic classification of Women's Lower part of Body

by

K. KATŌ, Y. GOTŌ, C. FURUKAWA  
A. MATSUI, H. HISADA

### 緒 言

前報において、Commercial pattern の利用実態および市場調査と同一ボディによる各社スカートの着装比較実験を行なったが、今回は体型の異なる学生を被験者とし、より体型に適合したスカート・パターンを得るため、重要項目である腰囲と胴囲との二項目の組合せによる下半身の体型分類を試みたのでここに報告する。

### 実験方法

本学短期大学家政科学生を対象に表1の内容について行なった。

### 結果および考察

体型に適合した Drafted pattern (以下D. P. と略す)を作図設定する場合も、よりよいCommercial pattern (以下C. P. と略す)を選択する場合もまず正確に採寸し、各自の寸法、体型を把握することが必要である。

#### 1) 体型測定 (H-W差)

図1に示すようにまずスカート製作について、D. P. 及びC. P. 被験者の胴囲 (W), 腰囲 (H), の採寸をし、 $H \cdot W$ 差による体型測定をした結果、19cm差から32cm差までに分布がみられた。これらの中で

表1 実験方法

項目 \ パターン	D. P.	C. P.
調査年月日	47年10月	47年9月
調査対象	本学学生 226名	
	各社パターン 13種	
測定方法	テープメジャー法による方法	

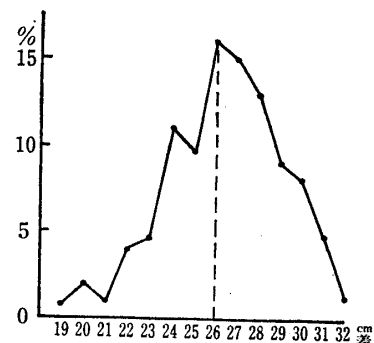


図1 体型測定 (H-W) 差

最も高率を占めたのは26cm差の15.9%である。次いで27cm差の15%、28cm差の13%の順にみられた。以上を合わせると約44%である。その他24cm、25cm、29cm、30cm差の順にみられ、それ以下の者も少数ながらみうけられた。

## 2) 被験者の体型分類

図2に示すように、被験者の体型分類を下半身のみについて行なった。

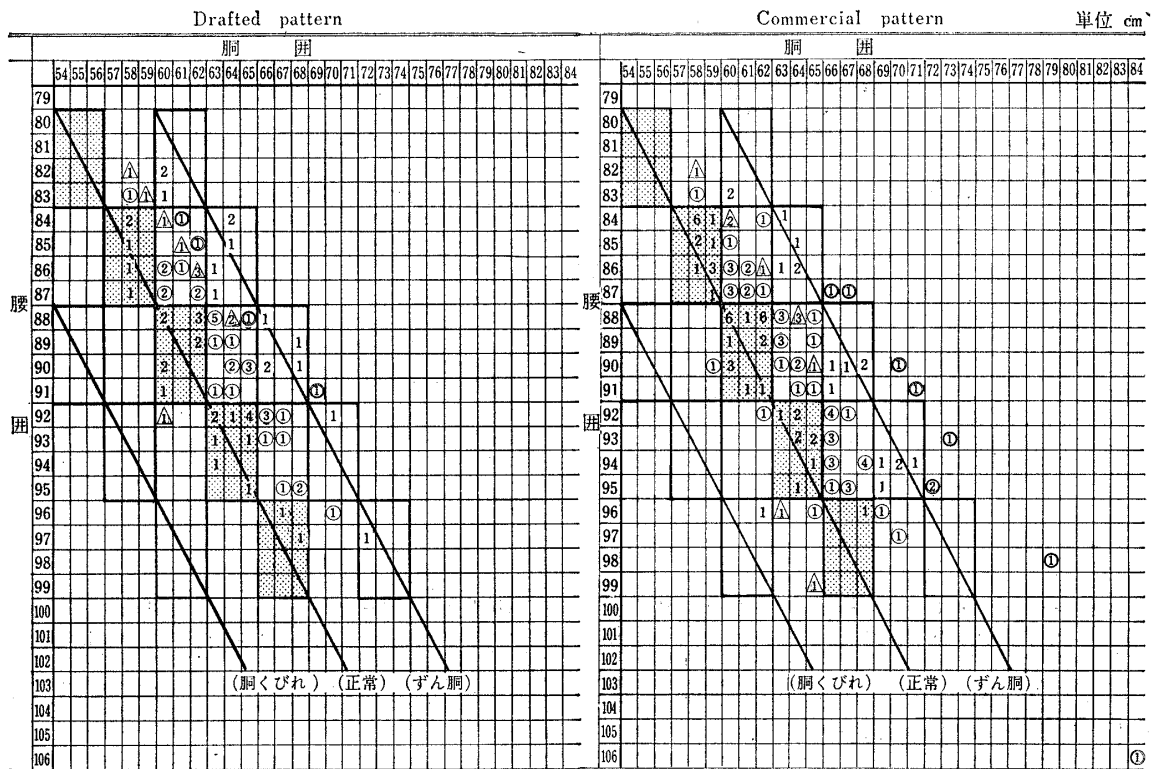


図2 被験者の体型分類

横に胸囲サイズを示し、縦に腰囲サイズをとり腰囲は4cm区分別に、胸囲は3cm区分とした二項目組合せによる柳沢<sup>1)</sup>らの報告による体型分類の分布にあてはめてみた。

太線わくで示すところの中央は最も均整のとれた体型で正常体型とし、左側は腰囲に対し、胸囲の小さい胸くびれの体型、右側は腰囲に対して胸囲の大きいずん胴体型である。その他わく外の者は、表2に示すようにH・W差によって○印は差25cmから31cmまでが正常に近い体型、◎印は差20cmから23cmまでをずん胴に近い体型、△印はいずれにも入らない中間体型として、分類上正常と胸くびれの間32cm差をA体型とし、正常とずん胴の間24cm差をB体型とした。

本学学生の体型の分布をみると、D. P. 被験者、C. P. 被験者共に太線わく内に入らない者が多く、中でも最も多いのは正常に近い体型である。次いで正常体型、ずん胴に近い体型、ずん胴の順である。正常と正常に近い体型は全体の約 $\frac{2}{3}$ 以上をしめたが、胸くびれや胸くびれに近い体型はほとんどみうけられなかった。

表2 HW差による体型区分

記号	体 型	H-W
○	正 常 に 近	25 ~ 31
	胸くびれ近	33 ~ 36
◎	ずん胴近	20 ~ 23
△	中 間	A32・B24

以上のように正常，正常に近い，ずん胴，ずん胴に近い，中間（A・B），胴くびれ，胴くびれに近い体型の7体型に分類された。このようにD.P.被験者，C.P.被験者とも同傾向を示していることが把握できた。

### 3) 体型別割合

D.P.とC.P.被験者の体型の割合をグラフ化してみると，図3のようである。

D.P.被験者においては正常に近い者35.6%，次いで正常32.2%，ずん胴16.7%，中間B10.0%であった。C.P.においては正常に近い37.5%，正常32.2%，ずん胴13.2%，ずん胴に近い8.1%の順であり，D.P.同様2/3以上が正常とそれに近い体型でしめられている。

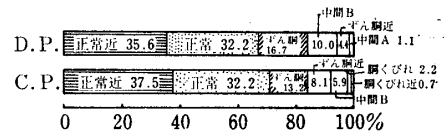


図3 体型別割合

以上のことから，今日までの衣服の流行はウエストを強調しない傾向にあり，ヒップボーン・デザインのもものが流行したこと，または戦後若い人の生活様式が畳に座ることから椅子式に，和服中心が洋服中心へと移行したため，体位は身長が伸びて胴囲が大きくなり，胴くびれの体型から正常に近い体型へと移行した傾向があるのではないかと考える。

### 4) 各社パターンのH-W差

表3に示すように，各社パターンの中からHサイズ，Wサイズと，それらの差について調

表3 各社パターンサイズWH差 単位cm

ミスパターン				ミセスパターン			
パターン	H	W	H-W	パターン	H	W	H-W
C	90	63	27	S	86	62	24
P	89	62	27	Y	90	66	24
B	89	61	28	Q	90	62	28
E	90	62	28	X	90	61	29
D	89	61	28	V	92	62	30
A	90	60	30	平均	89.7	62.8	27
W	92	62	30				
R	90	60	30				
V	92	62	30				
平均	90	61	29				

べ，学生の体型との比較を試みた。サイズは各社まちまちで，ミスパターンではHサイズ89cm～92cm，Wサイズ60cm～63cmであるが，差は30cmが最も多く，次いで28cm差である。平均では29cm差となる。

これらの差について図2にあてはめてみると，正常体型6社，正常に近い体型の3社である。平均サイズでは正常の中に入る。ミセスパターンでは，Hサイズ86cm～92cm，Wサイズ61cm～66cmの間に分布し，差は24cmが2社，その他28cm，29cm，30cm差とばらついている。平均

では27cm差となる。これも体型分類表にあてはめてみると、24cm差の2社は、ずん胴体型、中間B体型であるが、その他は正常体型、正常に近い体型である。

以上のようにミスパターン、ミセスパターンともだいたい正常又は、正常に近い体型で設定されているが、ミスに比べ、ミセスの方がややずん胴に近い体型で設定されていることは、当然のことながら数字に現われている。しかし、ミスとミセスと同サイズ、同差を用いているものなど、各社基準とする寸法はまちまちである。また本学学生のH-W差の図1と比較すると、学生は26cm差が最も多く、27cm、28cmの間に多く分布しており、30cm以上の差は少数であるのに対し、ミスパターンにおいては、最少差27cmで、平均でも29cmとなり、本学における26cm差は全く見当たらない。ミセスパターンにおいても、平均値は27cmで、26cm差のものは表示されない。これは、C. P. パターンの基準値が、最もスタイルのよい理想の体型によって、設定されているのか、或は、本学学生の体型が比較的ずん胴に近い体型に片寄っているのではないかと考える。

## 要 約

1. 被験者226名の下半身の腰囲、胴囲の二項目の差においては、19cmから32cmまでの分布がみられたが、26cm差が最も高率をしめた。
2. 二項目の組合せによる体型分類では、7体型の分類がみられた。
3. D. P., C. P. の被験者とも正常に近い体型の出現率が最も高く、次いで正常、ずん胴の順にみられたが、正常と正常に近い体型で全体の $\frac{2}{3}$ 以上をしめた。胴くびれの体型は、わずか1名の出現であった。
4. 各社パターンサイズのWH差は、ミスパターンにおいては30cm差が多く、被験者の中で最も高率をしめた26cm差のものはみられなかった。ミセスパターンは、各社基準とする寸法はまちまちであった。

以上今回の実験で得た体型分類の資料をもとに、D. P. および各社のC. P. スカートについて第四報では体型別に適合度の比較研究をすすめたい。

## 引 用 文 献

- 1) 柳沢澄子(1971) 家政学講座12, 被服構成学, 光生館